

## 庄内地区における学校とまちづくり協議会の協働事例

朝倉, 脩二  
庄内地区まちづくり協議会事務局長

<https://doi.org/10.15017/2556594>

---

出版情報：生活体験学習研究. 18, pp.11-16, 2018-07-30. 日本生活体験学習学会  
バージョン：  
権利関係：

# 庄内地区における学校とまちづくり協議会の協働事例

朝倉 脩 二\*

## A Case of Collaboration Between Schools and the Town Development Council in the Shonai District

Asakura Shuji\*

**要旨** 宮崎県都城市の庄内地区まちづくり協議会は平成22年に設立され、8年が経過した。設立当初から地区内にある小学校3校、中学校1校との連携を進めてきた。特に庄内地区コミュニティ・スクールの体制の確立、地域をあげて取り組んでいる「心のプレゼント運動」、地域の歴史を子どもたちに伝える活動などの事例を紹介。

**キーワード** まちづくり協議会、コミュニティ・スクール、学校支援地域本部、郷土の歴史教育、地域学校協働活動

### 1. 都城市庄内地区まちづくり協議会の概要

都城市は宮崎県の南西部に位置し、人口166,248人（住基人口・平成30年3月1日現在）の県内第2の都市である。市では「協働のまちづくり」を推進しており、その柱として、地域住民が中心となって、身近な課題を解決したり将来あるべき姿を検討したりする、「まちづくり協議会」の運営を支援している。平成22年度から28年度にかけて市内の15中学校区全地区にまちづくり協議会が設立された。

庄内地区では平成18年から「地域のことは、地域の手で解決していこう」との思いから、都城市内で初めて住民有志による市民自治検討会議を立ち上げ「まちづくり協議会」設立の検討を始め、平成22年6月に庄内地区まちづくり協議会を設立した。

従来から地域で活動していた庄内地区社会教育関係団体等連絡協議会（社教連）を中心に地区内のあらゆる団体を網羅し、各団体から選ばれた約70名の代議員は自治公民館活動部会、地域づくり部会、健康福祉部会、教育文化活動部会、環境整備部会の

5つの部会のいずれかに所属し、活動を行っている。運営資金は都城市の交付金のほかに、各自治公民館（都城市では自治会を自治公民館と称している）加入世帯の負担金や、まちづくり協議会で受託した地区内公園等の整備事業の益金も充てている。

### 2. 都城市庄内地区のデータ

庄内地区は都城市の西北部に位置し、3,591世帯、人口7,698人、高齢化率34.2%（住基人口・平成30年3月1日現在）、自治公民館（自治会）は10館である。地区内には小学校3校、中学校1校があり、児童・生徒数は平成30年5月1日現在、庄内小学校170名、乙房小学校168名、菓子野小学校104名、庄内中学校181名の合計623名である。都城市中心地からはそれほど離れていないものの、人口は減少傾向で準中山間地域と言っても過言ではない地区である。（図1）

庄内地区の自慢は「日本の滝100選」にも選ばれた関之尾滝（せきのおのたき）や国指定天然記念物

\*庄内地区まちづくり協議会事務局長

連絡先：〒885-0114 宮崎県都城市庄内町12692番地 庄内地区公民館内

TEL：0986-37-3488 FAX：0986-37-3488 携帯：090-3608-7626 E-mail: asakura@bonchi.jp



図1. 庄内地区の位置

の関の尾の甌穴（せきのおのおうけつ）、都城島津家のルーツとも言うべき数々の史跡、国登録有形文化財の願心寺（がんしんじ）及び山門などがあり、また熊襲踊（くまそどり）をはじめとする伝統芸能も盛んな地区である。

### 3. 都城市のコミュニティ・スクールの状況

都城市は学校運営協議会制度を平成25年度より、市内の小中学校56校（小学校37校、中学校19校）に一斉に導入した。庄内地区でも小学校3校、中学校1校に導入され、学校運営協議会委員は各校8名、計32名である。導入当初は委員選定に学校側が苦労した時期もあったが、現在はそれぞれ定着し、スムーズに進行している。

### 4. 庄内地区学校運営協議会委員懇話会の発足

学校運営協議会委員は自治公民館長、民生委員児童委員、PTA役員など地域で様々な公的活動をしている人が多く、すなわちまちづくり協議会の代議員と重なることが多い。4校の学校運営協議会委員32名の内20数名がまちづくり協議会の代議員である。

コミュニティ・スクールでは学校を支援する学校

支援ボランティアの組織をそれぞれ作る構想になっているが、地区内に4つの支援組織を作ることになると支援者の奪い合いになる可能性もあった。そこで平成27年度に庄内地区まちづくり協議会と各学校で協議した結果、4校の学校運営協議会委員が一堂に会し、顔合わせや意見交換を行う「庄内地区学校運営協議会委員懇話会」（事務局：庄内地区まちづくり協議会）を発足させた。平成28年2月の懇話会で、庄内地区では各学校に支援組織を作るのではなく、庄内地区まちづくり協議会内に「庄内地区学校支援地域本部」の事務局を置き、地域をあげて学校を支援していくことを提案し了承された。（庄内地区コミュニティ・スクール体制図は図2）

平成28年度からは、5月に「庄内地区学校運営協議会委員懇話会」を開催している。地区内の学校運営協議会委員32名と各学校の校長・教頭・教務主任及びまちづくり協議会役員が出席し、「庄内地区学校支援地域本部」の趣旨や利用方法を説明している。

新任の学校運営協議会委員もいるので、都城市学校教育課の職員による学校運営協議会制度の説明も実施、各学校の委員紹介なども行っている。懇話会終了後各学校に分かれて第1回の学校運営協議会を開催している。

## 庄内地区コミュニティ・スクール体制図

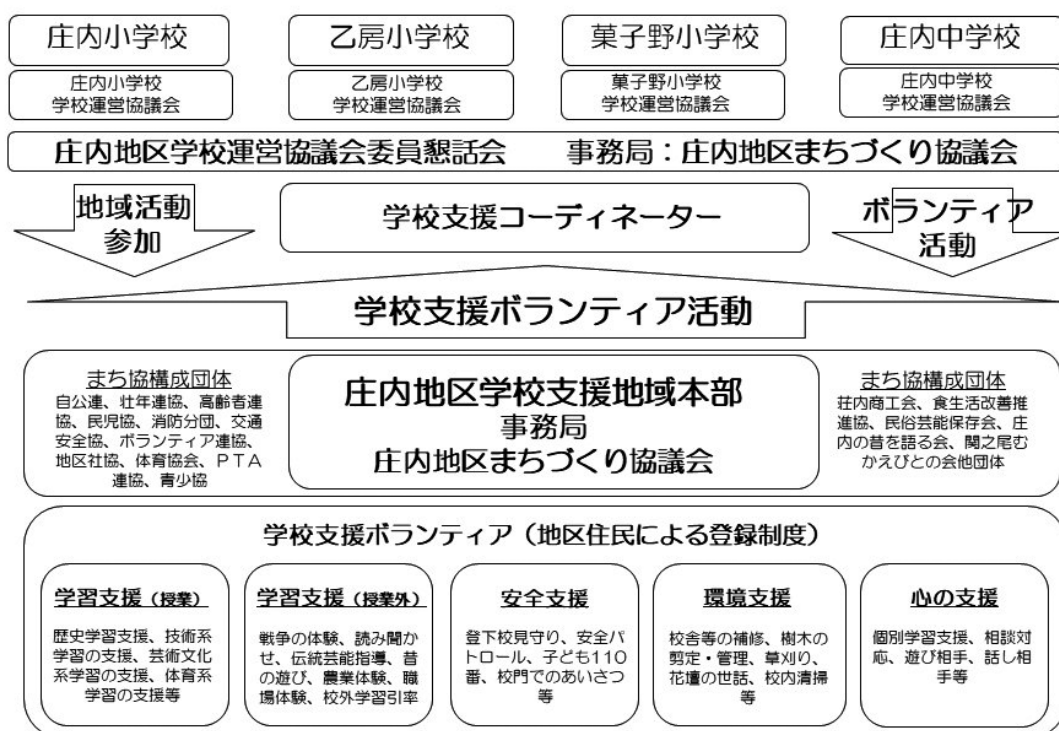


図2. 庄内地区コミュニティ・スクール体制図

## 5. 庄内地区学校支援地域本部

平成28年度からスタートした「庄内地区学校支援地域本部」は庄内地区まちづくり協議会が事務局となり、学校支援コーディネーターを各学校に1名ずつ配置、学校側から支援の要望をしやすい態勢を取った。平成28年度の支援実績は16件（表1）、平成29年3月31日現在学校支援ボランティア登録者104名であった。

学校から支援の要請があると、学校支援コーディネーターは高齢者クラブなどに呼びかけ学校支援ボランティアを募集するほか、学校の支援内容によっては食生活改善推進員や郷土史研究グループ等に呼びかけ推薦してもらうこともあった。いずれも庄内地区まちづくり協議会の構成グループなので、快く協力をしてもらった。学校支援ボランティアは「ボランティア活動保険」に加入している。

表1. 平成28年度の主な学校支援の例

学校名・学年	支援内容	支援人数
庄内小学校4年生	郷土料理づくり	2
庄内中学校3年生	3年生補習支援（大学生）	2
乙房小学校5年生	家庭科「わくわくミシン」（ミシン実習）	6
乙房小学校6年生	家庭科「エプロン作り」（ミシン実習）	6
乙房小学校全校	乙房小ふれ愛祭り	40
庄内小学校全校	もちつき大会	12
庄内中学校3年生	高校受験面接練習（模擬面接試験官）	3
庄内中学校1年生	食育調理実習（食生活改善推進員）	3
庄内小学校全校	持久走大会見守り（交差点）	6
庄内小学校全校	お別れ遠足見守り（交差点・信号）	14

### 6. 地区住民みんなで取り組む「心のプレゼント運動」

庄内地区では「心のプレゼント運動」を推進している。これは「明るいあいさつ、ありがとう、人がよろこぶこと」をすすめる運動、すなわち「やさしい心」「感謝の心」「思いやりの心」を育てる運動であり、平成15年庄内地区社会福祉協議会が提唱したものである。

庄内中学校美術部がデザインしたのぼり旗を作成、地区内小中学校4校と地区内自治公民館（10館）にかかげ毎月1週間はあいさつなどを励行している。各家庭にもチラシを配布し地区をあげて運動に取り組んでいる。（図3）平成28年度はさらに庄内中学校生徒がデザインしたマスコットキャラクター（図4）を加えた看板も作成し、地区内20ヵ所に設置した。子どもたちは登下校時に出会った人に大きな声で挨拶をしている。中学生もしっかり頭を下げて挨拶ができるようになった。

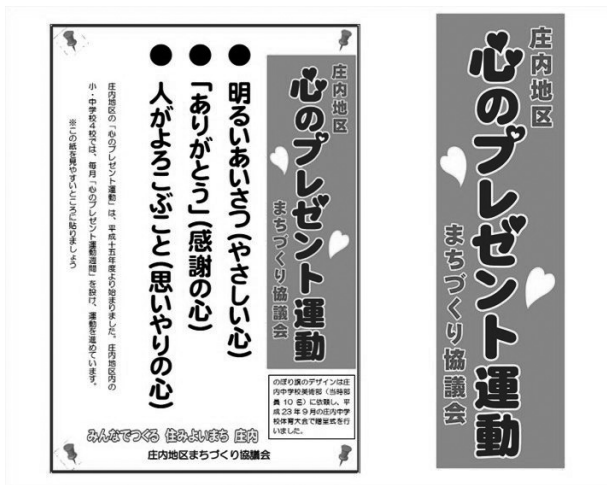


図3. 心のプレゼント運動各戸配布チラシ、のぼり旗



図4. 心のプレゼント運動マスコットキャラクター

### 7. 子供たちに伝えたい郷土の歴史

庄内地区まちづくり協議会では地域の歴史を子供たちに認識させ、郷土に対する誇りを持ってもらうことを目的にいろいろな活動に取り組んでいる。

平成23年度から、庄内中学校1年生を対象に「地域巡見学習」を行っている。1年生（70名前後）をマイクロバス3台に分乗させ、地区内にある史跡、神社、お寺などを郷土史に詳しいガイドが同行して解説している。（図5）



図5. 庄内中学校1年生に史跡の説明

平成28年度には「地域巡見学習」の副読本として、「庄内歴史読本」を作成した。作成は「庄内の昔を語る会」が担当、通史や地区内の遺跡、史跡、民俗芸能などをB5版91ページにまとめた。（図6、表2）

また各小学校児童に対しては、遠足形式での史跡巡り、紙芝居による郷土の偉人の解説なども行っている。夏休み期間中に行う地区内小・中学校教職員の地域巡見研修では新しく着任した先生たちに、地区内の史跡、文化財などを案内・解説している。

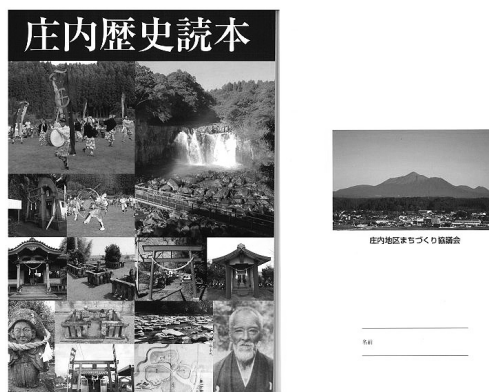


図6. 「庄内歴史読本」（平成29年3月作成）

表2. 「庄内歴史読本」の内容

内 容	ページ数
庄内の歴史 地名「庄内」の誕生と移り変わり 庄内の遺跡 原始・古代の庄内 中世の庄内 近世（徳川時代）の庄内 幕末の庄内 明治時代 大正時代 昭和時代	38
三島通庸公による庄内のまちづくり	4
太平洋戦争の記憶	6
庄内の三大用水路	6
庄内の遺跡	8
庄内の史跡	15
庄内の民俗芸能	7
庄内の歴史年表	2
都城島津家歴代当主	1

## 8. 児童・生徒も参加する三大イベント

庄内地区まちづくり協議会では児童・生徒も参加する三大イベントを毎年行っている。

### ①. 庄内地区スポ・レク大会（10月開催）

スポーツ・レクレーション大会の略。秋晴れのもと、庄内川堤防沿いに約5Kmを歩く。子どもから高齢者まで約200名が参加する。（図7）



図7. 第18回庄内地区スポ・レク大会

### ②. 庄内ふるさと祭り（11月開催）

作品展示、ステージ発表、バザー、出店などを行う。作品展示では保育園・幼稚園・小中学校及び一般の部から絵画、書道、写真、工作等を出品する。

ステージ発表の午前中は地区内保育園、こども園、幼稚園のマーチングや各小学校が取り組んでいる民俗芸能継承活動、中学校のブラスバンドの発表等を行う。民俗芸能継承活動は各校5～6年生が取り組み、指導は地域の民俗芸能保存会の大人が行う。（表3、図8）

午後は各自治公民館対抗の歌合戦を行っており、各小中学校の校長は審査員を務める。

表3. 各小学校の民俗芸能継承活動の発表

学校名	民俗芸能名
庄内小学校	熊襲踊（くまそおどり）
	夫婦踊（みとおどり）
	水道音頭（すいどうおんど）
	南洲太鼓（なんしゅうだいこ）
菓子野小学校	俵踊（たわらおどり）
乙房小学校	乙房奴踊（おとぼうやっこおどり）



図8. 第32回庄内ふるさと祭り（乙房奴踊）

### ③. 庄内川一周YOU遊駅伝大会（12月開催）

庄内川沿いに11区間17Kmを走る。各自治公民館からチームを編成して出場する。区間ごとに小学生、中学生、高校生、成人や男女別の制限がある。コースは各自治公民館の近くを走るように設定されており、沿道では盛大な応援風景が見られる。

15チーム前後が出場するので、多くの児童・生徒

が選手として参加する。中学生ボランティアは中継所計測員等運営スタッフとして毎年50名程度が参加する。(図9)

各小中学校校長は大会に参加し、児童・生徒を励ますとともにコースを車で走り、沿道での各自治公民館の応援を採点し応援賞を発表する。



図9. 第23回庄内川一周Y O U遊駅伝大会

## 9. 子どもの声を聞く会

平成30年2月に庄内地区青少年育成協議会(会長:庄内中学校校長)と庄内地区まちづくり協議会教育文化活動部会で主催して「第1回庄内地区子どもの声を聞く会」を開催した。各小学校1名、中学校2名の計5名が発表を行った。将来の夢や感動したこと、まちづくりの提言もあり感心させられた。今後も継続して行っていく。(図10)



図10. 第1回庄内地区子どもの声を聞く会

## 10. まとめ

以上のように庄内地区では地域と学校はさまざまな機会を通じてスムーズに連携ができるようになってきた。庄内地区まちづくり協議会を設立して8年が経過したが、振り返ってみると協議会を構成する団体はそれぞれ課題を抱えてはいるものの、概ね活性化が図られてきた。団体同士の連携・協力体制がしっかりできた結果、時代の変化に対応していける自信を持ち始めているように思う。

国が推進する「地域学校協働活動」は、まさにまちづくり協議会が目指す方向性と同じであり、今後も「みんなで作る 住みよいまち 庄内」のキャッチフレーズのもと、地域全体で子供たちの学びや成長を支え、より良い地域づくりを目指して活動して行きたい。